

令和5年1月27日

令和4年度 第1回美幌町総合教育会議 会議録

美 幌 町 教 育 委 員 会

令和4年度 第1回美幌町総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和5年1月27日（金）

[	開会	13時30分
	閉会	15時15分

2 場 所 美幌町役場1階 第1会議室①②③

3 出席者

(構成員)	美幌町長	平 野 浩 司
	美幌町教育委員会	
	教育長	矢 萩 浩
	教育長職務代理者	加 藤 哲 彦
	委 員	小 川 慶 子
	委 員	大 沼 美 紀
委 員	東 海 政 博	

(構成員以外の出席者)

美幌町	
総務部長	小 室 保 男
美幌町教育委員会	
教育部長	遠 藤 明
学校教育課長	多 田 敏 明
指導主事	藪 下 一 己
学校給食課長	片 平 英 樹
スポーツ振興課長	浅 野 謙 司
博物館課長	鬼 丸 和 幸
図書館長	竹 花 史 康
学校教育グループ主査	
	長 尾 英 孝
学校教育グループ主査	
	瀬 口 正 幸

(傍聴者) なし

13時30分 開会

1 開 会

○遠藤教育部長 皆様、お疲れさまでございます。定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回美幌町総合教育会議を開催させていただきます。

本日の出席者につきましては、議案の2ページに掲載しておりますので、ご確認のほどよろしく願いいたします。

また、本会議は原則公開となっておりますので、あらかじめご承知おきます。

それでは、お手元の会議次第に基づきまして、会議を進めさせていただきます。

2 挨 拶

○遠藤教育部長 初めに、会議の主宰者であります平野町長よりご挨拶を頂きます。町長、よろしくお願い申し上げます。

○平野町長 改めまして、皆さん、こんにちは。もう1月が終わろうとしていますけど、多分皆さんとお会いするのは初めての方もいるかもしれませんので、どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

私どもの議会については、今日教育長もそうなのですが、iPadでいろいろペーパーを使わないでというやり方でやっています。同じ聞くと、何か教育委員会もクロームを使って、委員さんの皆さんも持っていたということなので、今日はちょっと見栄を張って皆さんで、できるだけクローム、それからiPadを使って進められれば、またこれも一つの会議の手法が変わっていいのかなというふうに思っております。

本当に皆さんには季節柄、忙しい時期に、令和4年度の第1回の総合教育会議にお集まりいただいて、心からお礼を申し上げます。

この総合会議につきましては、皆さんご存じのとおり町教育行政の組織及び運営に関す

る法律に基づいて教育委員会と地方公共団体の町が協議を行う場として、平成27年から開催させていただいておりまして、美幌町における教育課題について教育委員の皆さんと直接お話しする貴重な機会というふうに考えております。なかなかコロナ禍が続いておりまして、町民の方々の学ぶ機会をしっかりと確保しなければならない状況ではありますが、そういう状況にはまだ至っていないと。特に子供たちの教育環境ということに特化してみれば、コロナ禍の影響で本当に子供たちの状況というのは厳しい状況に至っているのかなというふうに思っております。

何とかこれからの未来の美幌町というか、大きく言えば日本国のことを考えれば、本当に今こそ教育に関わる皆さん、それは当然教育長含めて教育委員の皆さん、それから学校の先生、保護者の皆さん、そしてそれを取り巻く町民の方々と一丸となって、やはり進めていかなければならないのかなという部分であるというふうに思っております。そういう意味では、教育長及び教育委員の皆さんには大変ご苦勞をおかけしますが、何とか導きをしていただければというふうに思っています。

今日は限られた時間ではありますが、皆さんと今日は多分子供たちの学力の状況の共通認識を皆さんとさせていただいて学びながら、そしてこれからの美幌の教育の中において、子供たちの学力をどうしっかりつけていくことが大事なのかを協議できればというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○遠藤教育部長 ありがとうございます。

続きまして、教育委員会を代表いたしまして、矢萩教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○矢萩教育長 改めまして、お疲れさまでございます。令和4年度第1回目の総合教育会議に当たりまして、教育長として一言ご挨拶申し上げます。

昨今の社会情勢におきましては、S o c i

e t y 5.0の到来、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、社会や生活のありようが劇的に変わる中、子供たちが将来にわたって自立して生き抜いていくために、教育行政の果たす役割はますます重要になってきているところであります。

本町の学校教育におきましても、令和2年度に導入いたしましたG I G Aスクール構想による1人1台端末、さらには令和4年度に導入いたしました電子黒板などI C T機器を、より意図的、効果的に学習活動へ活用した上で、学習への興味、関心を高め、教育の質の向上と子供たちの情報活用能力の育成に取り組んでいるところであります。

また、生涯学習の充実におきましては、美幌町教育大綱の基本目標であります「夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり」の実現を目指してを町民の皆様と実現するための具体的取組であります第8次美幌町中期社会教育計画を令和3年度に策定し、学校、家庭、地域など力を結集して推進しているところであります。

新型コロナウイルス感染症の収束はいまだ見通せない状況にありますが、次代を担う子供たちが夢を語り合い、心豊かにたくましく成長できることを願い、さらに町民一人一人が生き生きと豊かな人生を送ることができるよう、しっかりと教育委員の皆さんと協議し、合意を得て様々な教育課題について積極的に取り組んでいきたいと存じているところであります。

本日は短い時間ではありますが、美幌町の教育の状況を平野町長と共有させていただき、一層のご支援を頂きたく、どうぞよろしくお願いいたします。

○遠藤教育部長 ありがとうございます。

では、議事に入りますが、これより先の議事進行につきましては、美幌町総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定によりまして、町長が会議の議長となりますことから、平野町長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

3 議 事

(1) 学力向上について

○平野町長 それでは、お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

会議次第の第3、議事の中の(1)学力向上について事務局からご説明をお願いいたします。

なお、会議の中で発言につきましては、着席のままで進めたいと思いますので、よろしくお願いいたしますというふうに思います。

発言の場合には、挙手をしていただければ、ご指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局のほうから説明をお願いします。

○薮下指導主事 それでは、ここで資料2をモニターに写しプレゼンをしながら進めたいと思うので、見える位置にご移動いただければと思います。

それでは始めますが、テーマは学力を上げるです。美幌町の子供の学力を上げるためにまず一番最初に考えてもらいたいことがあります。学力とは何でしょうか。教育委員の皆さんにはすでに話していますので、学力というのはこれだなというのはお分かりだと思います。

学力のほかにもう一つ、基礎学力とは何でしょう。この辺をしっかりと理解していかないと、学力テストの結果を見ても正しい考えが出てこないと思います。

学力テスト、全国学調で出てくる結果は、学力の中の一部と言えます。はい、次へ進んでください。

これが学力なのです。そして学力テストで分かるのは、ここですね。

これどうですか。学習意欲は学力テストでは分からないと思うのです。例えば何かに取り組むときに意欲的に取り組む。これ学力テ

ストでは評価できないと思うのです。だけど、すごく重要なのです。活力を持って物事に取り組むことが学力向上に繋がります。

今、こんなことが言われています。「よりよい人生を送る」と書いていますが、これは何かと言うと幸せになることです。幸せになることの土台が学力であると押さえてください。

次に、今年と去年の学力テストの傾向ですが、これは比べちゃいけません。なぜなら人が違うわけですから。比べちゃいけません、何らかの傾向は出るのではないかと思いますので、ちょっと簡単にお話します。

一昨年、令和3年の小学校6年生の国語は、全道と比べては1.5問低い。そして算数は全道と比べて1.7問。中学校の場合は、全道と比べて0.7問。そして数学は1.2問です。皆さんにお配りした資料では、0.何問か1.何問の差です。

そして今年の結果ですけど、今年は小学校が国語では北海道との差を0.6問まで詰めています。算数は0.5問。学校によっては、ほぼほぼ全道、全国と同じぐらいに詰めています。中学校は、国語で1.5問、数学で2.2問の差となっています。

これをどう分析したか。それぞれの学校で全部分析しております。うちの学校で足りないのは「何か」を分析して、4月の段階で新たな課題を見付け、学校で指導していかなければならないことを明らかにし、指導をすすめております。

あともうひとつの傾向です。今度はクロス集計と言って相関関係を調べるのですが、どういう子供が点数を取っているかと言うと、ゲームをあまりしない子、それから4時間以上ゲームしたり動画視聴。動画視聴は学習の動画はセーフです。学習動画ではなくて、いわゆるユーチューブとかの動画視聴を4時間以上している子はぐっと点数が落ちます。1時間以内はぐっと点数を取っています。あと読書が好きかどうか。新聞を読んでいるかどうかというのが、ポイントとなると思いま

す。

それでは、先へ進みます。1つだけクリックをお願いします。

では、この中で基礎学力とはどれでしょう。校長に基礎学力って何ですかと聞くと、「小中学校で指導するすべてのこと」とか、「学習指導要領に載っていること」と答えます。若い先生に聞くと、「基礎学力とは、読み書き計算」と答えました。この違いは、広義の基礎学力と狭義の基礎学力という捉え方と理解します。

基礎学力という言葉は、捉え方が色々あるということです。次に進みます

知識・技能というのは何を理解しているか、何ができるかというふうに言われています。学校ではこれを長期記憶させる必要があります。九九も覚えていないとかとよく言いますよね。あれ九九をどうやったら長期記憶しますか。習ってインプットですね。書いて、アウトプットなのです。書いたものを口に出して読むと、それが耳に入るのでインプットなのです。インプット、アウトプット、インプットという仕組みです。これが長期記憶につながります。だから勉強の仕方は、インプット、アウトプット、インプットというようなやり方をどう組み込むかが大事なのです。

では、家庭学習はどうすればいいのでしょうか。学校で教えっぱなしになると、それインプット、アウトプット、インプットしないまま終わることになるのです。

学校では知識・技能を定着させるための取組、この仕組みを意識して長期記憶につながるような取組をしなければいけません。より質の高い学習をするための授業改善を進めていますが、まだまだ工夫するところがあるのではないかと私は思っています。

家庭では、授業とリンクした家庭学習の計画・実践を進めることが大切です。タブレット端末、4月から持ち帰りの日常化が進んでいきます。持ち帰りが日常化したら今日やった勉強のところをもう一度勉強する、問題を解くということをタブレットでやると個別最

適化した学習ができます。A I 学習で、自分に合った進み方で今日やった勉強を復習することができます。

聞いた話ですが、高校の授業が何をやっているのかさっぱり分からないうちに帰ってきて、何をしたかというところある学習動画を見て、「何だこうなのだ、こういうことか」なんて独り言つぶやいたそうです。これ何が起こっているかというと、先行してあることを学ぶ、それをもう一度学ぶことによって、より深い学びになる、これは学力向上につながるのだと思っています。逆もあるのです。授業の前に予習の形で学習動画を見る。その後学校で学んだら、「ああ、こういうことか」と理解が深まるのです。これも実は長期記憶につながるのです。予習型、復習型というのは逆なのだけど、どちらも使える。

次に、学力テストの調査結果で分かった、弱いところは「理解していること、できることをどう使うか」ということです。

論理的、多面的・総合的、批判的に授業を行っているかが問われますが、これが何かと言うと、学んだ知識・技能を使って考えて判断して表現するという活動をさせなければ学力はつかないという話です。考えるときに論理的、多面的・総合的、批判的に考えましょうということ。後でやります。

根拠、理由をつけて筋道を立てることについて。「AはBです。なぜなら、～だからです」というパターンがより多く指導されているように思われます。これは、記述式の点数が悪い理由の一つです。

多面的・総合的。複数の視点から考え幅広く思考することが大切です。

次に、前にも述べましたが、基礎学力というのは広がったり狭かったりするから、それをはっきりさせましょうということで、この基礎力という言葉を持ってきました。

21世紀型能力。出所は国立教育政策研究所、国研という日本の教育を研究しているのが国研です。ここでは、基礎力を言語スキル、これは読み書きです。数量スキル。これは計

算です。これらにもう一つ入れたのが情報スキルです。I C Tも基礎力なのだという考え方です。基礎力としたこの3つのスキルは道具として考えていいです。この考え方が学力をつける源になってきます。

真ん中の円には思考力と書いています。なぜ、思考力、判断力、表現力でないのだと思われる方もいらっしゃると思いますが、判断力というのは考えて判断しています。表現するのも考えて表現しています。だから思考力を中核に据えたのです。この中に判断力と表現力も入るということです。

次に、問題解決・発見力・想像力、これはとっても大事です。この力がなければ学力はつきません。だから授業は問題解決的な学習でなきゃならないです。課題のない授業というのは、どこで課題解決力をつけるのでしょうか。ただ課題なくても「問い」があればいいです。子供たちが疑問などを感じるような問いであればよい。課題を発見する力が大事。子供たちが課題を見つけたりすることが大事なので、総合的な学習の時間は、全員共通の課題はないが児童生徒一人一人の課題を自分自身で見つけなければなりません。解決していった後にまた、分かったことから新たな疑問が分かる、見つかる、発見される、その繰り返し、スモールステップの繰り返しなのです。この小さな階段を登っていくのが大事です。

この上に来るのが実践力です。これは非常に高いです。自律的活動力。人間関係形成力。社会参画力です。

言語、数量、情報（I C T）を目的に応じて道具として使いこなすスキルを基礎力と定義するとどうでしょう。基礎力をまず定着させようとはっきりさせると、明確な目標が出来ます。でもさっき言ったように、これだけでは駄目だよということです。

思考力、一人一人が自ら学び判断し、自分の考えを持って他者と話し合い、考えを比較、吟味して統合し、まとめてよりよい解や新しい知識、さっき言った新しい知識をつくり出

し、さらに次の問いを見つける、課題を見つけるということです。

学校でやってもらいたいことは、考え、判断し、文章として表現するときの手立て、ワード・センテンスの提示。一般的なパターンは「私は～だと思います」、結論を言って、「その理由は～です」。これを指導しない先生はいないです。

比較。共通点はこれで、相違点はこれです。4年生で教えることになっています。

分類。この視点から分けると、視点を変えて見て、そういう分け方。現在、ICT使ってばりばりやっているところは、ジャムボードをタッチペンで動かしてグループ分けしています。グループ分けだけさせずに、どの視点で分けたかを意識させ、言葉で説明させることが大事です。

次は、具体的なことを言うとき何て言いますか。「例えば」ですね。例えば例を出して話す、こんなの普段から使っています。

次は、関連。「これらを関連づけると、～ということが分かります」。

統合、これはまとめです。「まとめると～です」。検証、本当にそう言えるのかなと心の中で言うてください。反証。「反対の例を示すと～」。

このように言い方をまとめ、教室に貼っておいて、具体の話し方を示して説明させることで、記述の力がついていきます。たくさんの場面で練習しないと記述の力は付きません。

学力向上推進の方向性という資料、資料1番を見てください。美幌町として目標を立てました。児童生徒に誰一人落とすことなく基礎力を習得させること。それから基礎力を活用し児童生徒の思考力・判断力・表現力を向上させること。そして児童生徒が将来の自分の姿を思い浮かべることができるようなキャリア教育を充実させることということです。

この基礎力ということをしっかり抑えながら指導し、小・中がしっかりと接続していくことが大事だと考えております。

家庭学習の在り方ということで復習型か予習型かにふれた6ページ。復習型は今日学んだことを確実に身につけさせるというやり方です。

それから、やり方ですけれども、適応問題をタブレットを利用して取り組むこと。予習型も同じです。予習することによって学びが深くなるということです。意味調べやただ写すだけでも実は脳は活性化しますので、教科書の文を手書きにすることが大事になります。これぜひやってもらいたい。事前読み、教科書は世界一の参考書というふうに言われていますので、その教科書をしっかり読むことも大事です。

動画視聴、ただ見ているだけだと脳は活性化しませんが、課題を持って取り組むことで動画が生きてきます。手立てのない単なる動画は楽で脳は冷たくなっていくそうです、青い色になって。赤い色で活性化するときには課題意識を持った取組があるときと。私が提唱するのは複合型で予習と復習2つやれるといいですねということで提案しています。

この提案については学力向上推進会議の中で委員長さんと相談して今後載せていく形になると思います。

○平野町長 今、薮下指導主事のほうから資料の説明があったのですが、この資料に関して何かご質問、ご意見等があれば、ちょっと皆さんからお伺いしたいのですけれども、どうでしたでしょうか。

今回の中でいけば、内容は学力を上げるということを考えたときに、薮下先生からは学力って何にという話はしてくれたのですね。そういった中でいけば、学力の中でいけば基礎学力という話をしていただいた中において、一歩進んで皆さんの認識ではその学力をどういうふうに上がることがいいかというのは何となく基礎力があって、そして学力で大きな流れであつたらいいのだけれども、では実際の子供たちに当てはめてみたときに、美幌の子供たちてどうなのですかね。一般的には学力低いよと言われているのだけど、や

っぱり教育委員さんが学力が低いということに対してどういうふうに捉えているかということですね、逆にね。

私は、よく本当に教育長に美幌の子供たちの学力低くないという話ね。私の中でいけば藪下先生から、さっきのピラミッド型の中のどちらかというイメージと言われる知識や技能的なもの、要は人間が生きていくには最低読み書きだよとか、よく教育長時代に事例で例えば仕事に就きましたと。では、数を数えておいでと言ったら本当に数数えていたって事例が出て、みんなで笑い話があったりとか。

それからコンビニに買物に行きました。お釣りをたくさんもらいたくないから、例えば960円だったと。だから千円に10円を出して50円玉をもらおうと思っていたら、もうちゃんと千円で足りているのに何で10円出すのですか。はい、お釣り40円でくれて。そういうことが普段の教育の中で生きてくために必要ではないのという話をしたときに、それを多分理論立てて、今はその部分というのは、今藪下先生からしてくれたのだけど、皆さんの実際うちの子供たちを見たときに、私は学力が低いというのは本当にそういう基礎という部分が身についているのかどうかというのが非常に心配。

どうなのですかね。私この頃、学校に行っていないのですけれども、皆さん見てみたりとか、私は今孫に勉強を教えているから、そういう意味ではリモートで教科書も全部用意してもらって、いろいろそれを見ている中においては何となくイメージは分かるのだけど、どうですかね、その辺の認識の中に意見がある方、頂けますか。

○大沼委員 意欲心や向上心など自分を高める力や忍耐力や自制心など自分と向き合う力とかいわゆる点数では測れない非認知能力と知識と一緒に伸ばしていくことが大事だと思います。

美幌町の子供たちや保護者が「学力向上」と聞いたときに、どういうふうに思っている

のかも気になります。

子供たちと保護者に学力向上がなぜ必要なのかを理解してもらい学校と家庭で知識や非認知能力を育て進まなければいけないと思っています。それを保護者と子供たちに、分かりやすく伝えるためにはどのようにしたら良いものかと考えています。

○平野町長 今そういう能力の分で考えたときに、逆にこれを藪下先生に聞きたいのですけれども、基本的に先生方というのは、要は子供がいて、こういう分け方はどうか分からないけれども、まず教える側の先生とそれから本人、子供たちと、それを家で見守る親として3つに分けたとしますね。そういった場合に、まずは先生方の認識として今学力ということを開きかけたときに、このことはどれくらい理解しているのでしょうか。

○藪下指導主事 さっきの三角形の資料については、私がお話しできる場面では必ず出しております。

こっちはアウトプットして向こうはインプットしたけど、長期記憶につながっていないパターンもあるのかな。ただ若い先生方は、これ勉強しましたというように言っています。

ただ、その三角形をどう理解しているのか、それをどういう認識で授業改善につなげるかというところは、うんと勉強して、実際実践していかないと、あっ、これだというのが分からないというふうに私は思います。

だから、今実はコロナで横のつながりがなくなっているのです。話を聞いたら、隣の学校の先生全然知らない。そのつながりを持ちたくて、教育長ともご相談していろんなことを考えていました。

○平野町長 ありがとうございます。例えばさっき3つの大きなブロックにしたときに、先生方に特化して、どっちかという気はないから基本的に指導主事が言ってくれたことが、ある程度まず伝わっているよね。そういう教育を先ほど美幌がどういう進めをするかということも資料の中に添付もしてくれているから、そういう中でやっているといった場合に、

今度はそのことがやれていたとした場合に、子供に逆に力がついていかないという、ここまで一遍にいかないといけない。どういうふうに捉まえたらいいいのか、それが多分きっと今大沼委員が、言ってくれたことにつながるような気がするのだけれども。

○薮下指導主事 非認知能力というお話をしましたよね。これ実は私は最も大事なことだというふうに思っているのですよ。いわゆる簡単に言うと学習意欲です。この学習意欲は評価が難しいのです。昔やったのは「楽しかったですか」とか、「今日の授業は満足していますか」と聞くのですけれども、「はい」に丸つけた人が多ければ、今日の学習意欲高かったねということになるかという、実は個々の部分ですから満足していますかなんて言って、いやいや俺はまだ満足していない、次に新しい課題見つけてこれに取り組もうとしているのだという子もいるわけですよ、学級がどんどん醸成されて高まっていくと。だから、気持ちの部分は点数化できないので、評価ができないという難しさがあります。でも、この非認知能力というのが非常に大事になってくる。

非認知能力の中にコミュニケーション力もあるのですけれども、テレビでもこの前やっていましたけど、コミュニケーションは、お父さんと子供がゲームを一緒にやるのはコミュニケーションとは言わないのです。隣同士でこうやって並列で並んでやるのは言葉をしゃべってもコミュニケーションではないと。なぜならば顔を見合わせていないから。顔と顔を見合わせてやるのがコミュニケーション。

この前テレビで、人間だけが白目を持っている、チンパジーも若干ありますけど。そこで見合うことでコミュニケーションを取ると。ゴリラは黒目しかないので、胸たたくようなやつとかでコミュニケーション取るみたいですよ。そういうのもあって一つ一つ勉強していけば、すごい面白いですよ。学力と非常に関わっています。なぜあの人は生き生きしているのだろうか、あの人は目をいつも輝

かしていますね、なんていうのがそれに当たります。そういう方って人生成功していますよね、生き生きしている。それが学力の一部だというふうにまた思うわけです。土台かもしれない、ちょっとまだそこらへんは分からないです。

○平野町長 例えばそういうことも含めて、今度は具体的にちょっと気になっているのが、今回配付して頂いた資料の中で、資料4の令和3年度と4年度の比較は、これは先ほど指導主事のほうからそういうものではないよということでもちょっと置いておいて、令和4年度のグラフというか、これを見ていただいたときに、すごく中学校を見たときにがたがた。さっきのベースとなるものと現実問題として、今度はこういう試験があって、これにどういうふうに捉えたらいいかというのは。

結果的にこういう複雑な形になっているのは公表の部分で少しでも、ここで言えば国語と理科と数学を一緒にグラフに入れているから本当にぐちゃぐちゃなのだろうけど、これを逆になかなかどこまで出すかというのは私の時代からも非常に論議があったのです。だからうちはどちらかというと公表しようとして手を挙げたことで、中にはやっぱり今でも公表していないところもあるよね。

だから、こういうグラフを見てなんだって、ただ批判ではなくて、そこに何か皆さんに関わってほしいということを希望して、うちは公表しようとしてみんなでしたのです。批判ではなくてみんなで協力しようという。だから、このグラフを見たときに数学のところだけを取ったとしたときに、これまたもうちょっと細部化したときにどうなるのかなという部分があって、逆にあくまでも今言った相対、全体的な数の中での分類だけれども、ではこの分布がどうこうというか。

だから、特に教育委員の皆さんというのは多分、具体的なデータを見たときに、よくうちらで言ったときに分布が、その問題を解いたときのここを見たときにどうなっているかというのはやっぱり、いろいろ多分協議した

り疑問になったりすると思うのですね。そのときにさっき言ったときに、この問題でいったら解ける、解けないというのは最低さっきいった読み書きそろばんではないけど、それが基礎学力と言っていいかどうか分からないけど、これは絶対解けなきゃいけないよねといったところが解けないとどうするかというふうにちょっと疑問は思っていたりはするのですよね。その辺何かちょっとつけ加えることで何か。

○薮下指導主事 例えば昨年令和3年度の小学校で、三角形の面積がどういうわけかできていなかったのですよ。何でできないのという話をして、ある校長に、ちょっとこれ何とかしてという話をしたら、すぐその授業をしていただきました。自校採点で。実際はもうちょっとよかったのですけれども、自校採点でいったら20%切ったぐらいの数字だったので、すぐやってもらいましたけど。やったら子供らは「何だ、そうか」という感じだったのです。そういうことは結構多かったりするのです。底辺と高さの場所を勘違いしていたということになります。

各学校で自校採点してすぐ取りかかれるものはやってくださいという流れにはなっています。すぐやらなきゃ駄目ですよと校長会議でも話したら、反応した校長先生がいち早く対応していました。

○小川委員 理解力ということで三角形の面積とかでもあるし、ほとんどの子がそこがうまく分かってなかったということで言えば、先生の言葉足らずだったりということがあったかも分からないですけれども、ちょこちょこ学校に行かせていただいている立場としては、すごく先生方大変にご尽力くださっているところではあるので、読解力ということもありますけれども、実際その文章から読んで理解するということの前の、先生がお話しすることがいかにその子との心とか頭の中にちゃんと入っているかという、もしかしたら読解力の前の段階でつまずきがあったり苦手だからという式で聞くから分からないとか。

なので、文章が苦手イコール文字が苦手なのかなというふうなことも思って、それであつと横にそれですけど明日、図書館で音読サロンをやらせていただくということで、その中では文章を読むけど意味は考えないでまず一文字一文字拾って読むというところで、文字に親しむ音の響きを自分の声も聞くけど周りの声も聞いて頭に入るという、その繰り返し繰り返しで文字と仲よくなるというところが一番ポイントかなというふうに思っています。

本当なら小さいときからの絵本の読み聞かせだったりということで、ちょっとずつ素地ができていところに小学校入って、お子さんも実際に声出して読んで、お母さんが、あ、上手だねみたいな感じの相互の関係ができてくるとすごく、国語がとても好きということではなくても文章を見て拒否反応が出ないかもしれないというふうに思っているところなのですけど。

なので、読解力の前の段階かもしれないという、音の響きだったりとか普通私たちが話している会話の中で、先ほどの説明的なことはあまり出てこないわけですね。授業の中で先生が意識して使ってくださいれば非常にありがたいところですが、それ以外のところでも聞くチャンスとなったらやっぱり読書が大きいと思うので、言葉の使い方ですとか、てにおはというのは普通の会話でも助詞を省いてしゃべってしまったということが非常にあるので、文章を書くというところでは本を通じて耳から聞くとか読むとかで言葉の使い方を学校の勉強以前になじんでいる機会があると、非常に学校の勉強もスムーズかなというふうには思っているところです。

○加藤職務代理者 小川委員の今の話に追隨する形で、フォローするような形なのですが、私も小川委員おっしゃったそのとおりだと思いますし、繰り返して読むことというのは大事なことだと思います。

あれいつでしたかね、去年の秋口に指導主事のほうから何度か学校経営報告の中で話が

あったのですけど、素読ということがありました。何回も何回も繰り返して、文章のことはあまり考えない、内容を考えない、とにかく読む。

基礎学力の中に読み書きそろばん、言ってみたらこれは昔の寺子屋みたいなものですよ。寺子屋というのは四書五経ってありましたが「子、日わく」だとか、そういったものを延々としゃべり続けていって段階を踏んでいく中で、だんだんその内容を知っていくわけではないですか、やがて理解していく。経験を踏まえながら年を追うごとにその理解の内容が深くなっていく。その中で生まれてくるのが、道徳心でありやがて養われてくる。それがきっと人間の力になっていくと人間力というか先ほどあったいろんな力がありましたよね、判断力だとか表現力だとか思考力、そういったものにもつながっていくのかなと思います。

それを繰り返していくことで、小さいうち小学校に入りたての子供はまだまだ指導者のほうのちょっとした間違いが全体の大きな影響になっていきますし、そこにだんだん年を追うごとに判断力や思考力が出てくると、先生ておかしいのではないかということが思えるようになってくると、先生が一つ間違っただけにしても、みんながそうならないというふうになってくれば、これは本当に進歩だと思いますし。なかなか今の学校教育の中で、年を追うごとに変化していった、その理解を深めていくということはなかなか多くはないと思うのです。それをステップにして次、それをステップにして次ということは当たり前のことだと思いますけど、一つのことを一貫してやっていくということはなかなか今少ないと思います。

今、道徳科も教科になりましたから、そういった中でもしもそういったことを進められることができれば、子供たちも違う影響が出てくるのではないかなと考えたりするのです。特に小学校6年間のうちというのは柔らかいところもたくさんあると思いますから、

そこでの指導の仕方によって中学の過程に上がる。高校に上がると今度は専門的なものも出てくることもあります。そこは先に行けばもっともっと細分化されていきますから、そうなる前のところでできると思うのです。

子供の頃に部活を一生懸命やり大して成績も収められていなかった。そんな人間でも鍛錬した中で社会人になって能力があって、それなりの立場になる方もいっぱいいらっしゃると思いますが、そういった方の中で多くの方がおっしゃるのは基礎学力がないと言われることが多い。もっと小さいときに勉強しておけばよかった。でも、それというのは後になってからある程度のフォローはできると思うのですけれども、それはなかなか大人になってからできないところもある。そうならないような部分のフォローを小さいうちにしてあげることも、これ一つ大事なことかなとちょっと私の感想ですけど。

○平野町長 はい、ありがとうございます。関連して。

○大沼委員 家庭で睡眠をしっかり取るということも非常に大事です。子供に学力を上げるためには何が一番大事なんだろうという話をしたときにすぐ睡眠と答えたのです。今、スマホを小学生のときから持っている子どもたちがいます。それを親が管理しているのだったらいいのですけれども、子供部屋に9時、10時に入ったとしても、その後、寝ないで夜中までスマホを触っていたり、寝てからも通知の音が入ったりとかスマホが睡眠を妨げる生活というのが昔と違うところだと感じています。

睡眠を取ったり栄養を取ったりというのは、当たり前のことですが、できていなければ学校で方策を出しても、学力はあまり上がらないのではと心配です。

○平野町長 ありがとうございます。

ほか、いろいろ意見の中で多分この内容というのは公表された中に、町長と教育委員さんがいろいろ話しましたよと。話しましたよで終わるのか、それとも話したことで何が改

善ができるかということ、誰に向かって言わんとするかということを考えれば、ちょっと私も例えばさっき教員、要は教える側、それから子供がいて、それから保護者がいてという話になったときに、非常に大事なことを言ってくれるときに、例えば睡眠というのはある意味ではこれはもう学校というよりも親御さんね。

何を言いたいかというと、例えば学校はある程度、指導主事に聞いたのは、さっき言った基本的な学ぶ、要は学力ということを理解していたとした場合に、そこから進んでいかないのは何でかという話になったときに、それは学校側の問題、先生方の問題なのか。

だから、例えば非常に分かるというのが小川委員が言ったのは本当に、僕は中学生を今教えているのだけど、明らかに点数をつけてくれるときに先生方に知識の部分と考える分と問題がさっと分かれていて、何点何点と出るのはですね。うちの学校は片方の要は計算とかそれがほとんど全問していて、こっち10問のうち2題しか合っていないという子も、そういうことをまさに小川委員が言ったことが露骨に分かる、それは問題が難しいのではなくて聞いている質問内容が分からない。それをきちんと後で言ったら、え、こんな簡単な、計算よりもめっちゃ簡単ではないということをやっぱり考えるというか、そういう中で行ったときにその辺が学校の中では、まずできているか、できていないかという教える側とすれば、その辺はしっかりできているのですよ、相対的に。

○薮下指導主事 私も教員のときに計算のほうは満点取るけどという子供を教えたことがあるのですが、こっちの文章問題になったら足し算なのに引き算したり、掛け算なのに割り算したりというようなことは毎回だったのです。教えると理解するのですが、何が足らないのかなと思って言葉の式にしてみたりとか、苦しんでいましたけど、今、管内の役場に正職員で入って頑張っていますので、苦しんだ甲斐はあったのかなと思ってい

ますけど、努力続けることは大事なのかなと。本は好きで読んでいましたね。

○平野町長 簡単に終わりなく、もうずっと本を読むこととかして、今、館長いらっやいますけど、うちぐらい0、3、6歳で3回本をプレゼントするというのに対して私は非常にいい町ではないかなと思いますね。読む機会という部分の中で行ったときに、そういうことを学校としてある程度指導した中において、あとは家庭だよなというので、これから家庭のことにしっかりどうするかというちょっと見えてくるとか。だから、その辺のすみ分けをちょっとはっきりしておいたほうが、多分さっき言った学力、それから基礎学力をつけるという本来の中で言ったら、もうある程度学校の中で限界に来ているとかそういうふうな。限界とは言わないね、一生懸命やった中でこれからそれをよくするためには、もうちょっと外の力となれば、一義的には保護者だよなとか、あとは地域だねと。

例えば今、教員の働き改革で、やっぱり彼らに対してはその分の給料が出ないわけだから、何時間を想定してきつと持って給与体系をつくられたときに時間外という概念をどうするかというのをいろいろ言われている中で考えたときに、やっぱり外から誰かが学校内に応援するとかね。

だから望んでいたものは、私が町長になったときに望んでいたときは、学校運営協議会をつくって、学校を地域でフォローしてあげてほしいということなのだけど。ちょっと話題それるのですが、この制度というのは、ある方から校長によってはあまりそんなに重要ではないよねと思っている校長もいられるよ。要は学校さえしっかりしていればという自分たちがという意味で、私は皆さんしっかりやっているのだけど、それ以上頑張っても難しい部分というのはやっぱり周りが応援して助けるという思いがある、その辺の認識というのはどうなのですかね。

○薮下指導主事 何かと言うと、やっぱり人と人とのつながりというものを大切にしない

といけません。人と人を紡いでいくという。だから地域の方と一緒に何かを活動する、むしろすべき、いかにいろんな方とタイアップしてやっていくかが大切で、その中にヒントをくれるのは学校運営委員会の中での話合いのように、その中で何とかするという話ではなくて、そこでこうだね、ああだねと言って、ヒントをいただきながら進めていくというふうに考えれば、そこに先生方を入れないと、きっと管理職だけでやっていると駄目なのですよ、できれば先生方も。

○薮下指導主事 外とつなげるという役割を持たせるということが大事だと言ってやったのですね。そのときに局にものすごい評価されましたけど、なかなかそれが浸透していかない。でも、すばらしいなと私は思いました。

○東海委員 本日、薮下先生に学力についてのお話を聞かせていただいて大変勉強になったのですけれども、その中で基本的な基礎のスキルを使って、そういう表現力、あと人間形成につながっていくという話だったのですけど。やはり学校でも学力の言葉なのですけど凸凹あってラインがあるのですけれども、やはりそういう上のほうにいる学力のある子供たちは、そういった先ほど言われた睡眠だったり生活リズムだったりというのは、学習できるリズムがいい循環でできていると思うのですよね。なかなか学力が上がらないという子供たちが、そういうリズムにいまいち乗り切れなくて、例えば家庭学習でちょっとゲームが多かったり、先ほどありましたけど4時間以上勉強する子、しない子、そこで分かれてしまうのですけれども、その辺で勉強する、やる気になるというところは当然そういう基礎的な学力をつけさせるというのはあるのでしょうか、きっかけづくりとか、そこに気づかせる場所が必要なのかなと思うのですよね。

何か先生方の指導力によるのでしょうか、勉強だけではなくて違った方面でもやる気が起きるきっかけづくりといいますか。例えば

大きいものになりますけど、夢だったりそういうのに向かって、ちょっと分からないですけど、そのためには勉強なのですよという感じを気づかせるタイミングというのを、それにはやっぱり学校の先生の指導もあるのでしょうけど、先ほど出ました家庭だったり地域の力というのが必要で、そこできっかけづくりというのが大事なのかなと思うのですよね。ちょっとあれですけど。

○平野町長 ありがとうございます。

○矢萩教育長 今の東海委員さんに関連するのですけど、よく言われているのは学校と家庭として行政のそれぞれの役割というところで、学校は学校で授業改善しています。それは本当に子供たちにいかに定着してもらうかということをやっている、あとは家庭に委ねる部分もあるのだけれども、やっぱり学校として相当危機感を持っているのですね、家庭学習で定着してもらうために。

それで、一つの学校の例なのですけど。ある小学校は、学校評価、当然家庭や児童、保護者からもらうのですけど、そんな中で家庭学習や読書の習慣づくり、あと今東海委員さんとの関係でもありますけど、自己肯定感とか自己有用感をどう思っているの、それをどうつけたらいいのということをアンケートを取ったと言われました。そこは186名にアンケートを取って115名の回答があったというと、3分の1ぐらいはないというのが実情なのです。そういった3分の1の方々に対して、さらなる周知ややっぱりどうしたら関心を持ってくれるんだというのが学校としても大きな課題なのかなと思っています。

あとは、非常に各学校は特色を持っていて、小学校と中学校と連携した家庭学習の習慣づくりだとか、あと家庭での読書や読書習慣、家庭学習の習慣づくりということで、非常に学校だけでも大きく見やすく、目に留まる、親だけでなく子供を見て目にしたら気づく、そういうような仕掛けをしていますので、そういったことは校長会、教頭会さんらには学力向上推進委員会、そういったところを通じて

連携した中で取り組んで浸透していければなと思っています。

○平野町長 はい、ありがとうございます。

○大沼委員 お母さん方と話しをする中で自分の子供が学校を卒業して社会に出たときに、元気に楽しくというのはもちろんのこと、自分の力で食べていってほしいということは皆さんおっしゃっています。自分の力で食べていくために、収入のあるところに就職したいと考えたときに、これからどんどんAIに今ある職業が奪われていってしまう時代。また私たちの人生も100年、この前、薮下先生も120歳の話がされていたのですが、そういう長生きの時代に入ったときに、仕事が狭められていて、そしてどんどん高齢化社会になったときに、何が必要かということをお子供たちや保護者と考えていかなければと思います。

また、SNSが発達し、すぐ皆さん検索をする情報過多の時代ですが、間違った情報もたくさんあるわけです。

ですから美幌町で正しい最新の情報発信は大事だと思います。

○平野町長 はい、ありがとうございます。

いろいろご意見頂いた中で、非常に私の進行は時間だけ経っていて、なかなかまとめるのが難しい部分もあるのかなというふうに思っています。

それで最後に、学校は私の認識としては十分でなくても一生懸命努力していただいているのかなというふうにおいていたときに、やはり今の保護者の方々が、今の例えば大沼委員が言われたようなことも含めて、どういうことに子供に気づかってよということがあれば、ちょっと最後一言、大体2分くらいでお話ししてもらって、地域はそれだけだったら、ただ教育委員、それから町長が私たち保護者にただ好き放題言っているのではないかなというふうには私は思われるのも嫌なので、では、そういうことを望む、私たちということは地域としてどういうふうなそれに協力できるようなことのもしアイデアがあれば、ちょっと

それを2分以内くらいでお話を頂いて、それでこの会議は閉じましようかね、いいですか、それでいいですか。それ以前の前に何か、これだけを発言していきたいというものがあれば。もし感じるものがあれば、普段思っていることでもいいので、それは批判ということではなく、こういうところをちょっと変えていただいたら、そしてこういうところも地域で応援するからこうだとかというようなことももしあればということで、ちょっとしたら。こっちから、小川委員からいいですか。

○小川委員 ありがとうございます。私が常々思っていたことと言えば、保護者の皆さんお仕事もされているし、幼稚園に子供を預けて、子供を連れて帰って、ご飯食べさせて寝せるとかということを聞くと、やっぱりすごい忙しそうで、その中でも笑顔でお迎えに来て努力されているのだなというのを伝えるところでもあるのですけれども。

やっぱり運営協議会できたというところで、そのところをぐっと学校とうまいことパイプを太くして、地域でバックアップするよというような体制でやっていて、お母さん方にもじわじわ気づいていただくほうが近道なのかなという感じはしています。

実際私たちは本を読みに行かせてもらっているのですが、おうちできっとお母さん方読む暇ないのでしょうと、よそのおばさん読ませてもらうからねみたいところで、地域の皆さんでちょっとずつちょっとずつ教育力を上げながらやっていくと、その子供たちもいずれは、私たち読みに始まって、もう学校で読ませてもらって何年も経つので、その子たちは社会人になっていますから、あのとき読んでくれた人ですねみたいに言ってくださるときもありまして。なので、やっぱり今の時点としてすごく嘆く部分もありますけれども、ここから一つずつ積み重ねていって、親は忙しかったけど、よそのおばさんこうやってしてくれたから、またそういうところを吸収しながら地域に還元していくというような考え方になってくれたら非常にありがたい

かなという思いでおります。

以上です。

○平野町長 はい、ありがとうございます。

○大沼委員 ありがとうございます。私は子供を授かって3歳までが非常に大事な時期と思っています。その間に何ができるのか。家だけでなく外に出ていろんな経験、体験することに無駄なことはないと思います。どんなことでも失敗したことも子供には良い方につながっていると感じています。

それから、子どもが小学校に上がると大分親から離れていきます。それまでの間、子供をしっかり見る。うちの子はどういうところがあるのかなと細かく自分の子供をよく見る。そして小学校に上がったときに、保護者、子供、先生と様々なことを共有するということはすごく大事かと思います。

10年ほど前に町の主催の国語教室、算数教室に子どもと一緒に参加しましたが、そのときに美幌の子供たちは学力低いんだよと言われとことと、参加した人数が非常に少なかったことを覚えています。

情報発信は大事です。親の力も頑張れるように口コミやお母さん方の力を借りて広げていけたらと思います。

○平野町長 はい、ありがとうございます。

○東海委員 そうですね、先ほどのとちょっと重複してしまうと思うのですが、やはり基礎学力というのは当然学校で教えられるのですけれども、そういった生きていく力というのをつけるというのも当然学校でもあれするのでしょうか、その辺も家庭でしっかり見ていただいてやっぱり、先ほど大沼委員言われたように、将来社会に出て生きていかなきゃならないので、その辺の力をもっとつけるというか、気づかせるというか気づきにもなるし、その辺の分かる喜びというのかな、そういうのを家庭でお子さんに喜びも含めて、家庭で子供に体得させるというか、その辺もできれば学校に行ってもやる気も大きいのではないのかなと。ちょっと強引ですけど、そんなのありますので。

○平野町長 はい、ありがとうございます。

○加藤職務代理者 先ほどお話ちょっとしたところでもあったのですけれども、基礎的なところでは読み書きというところは大事なことでと思いますし、私が経験したことです。今から50年も前の話ですから今の時代にはそぐわないのかもしれませんが、当時の担任の先生から言われたことに、クラスホームルームでの話であったのですけれども、今の君たちの授業を通して勉強する姿勢で大事なことは2つの「き」だと。1つは暗記だと、もう1つは根気だと。この2つの「き」を十分に熟らせていきなさい。たしか私が14、中学2年生くらいのときだったと思いますから、もう50年近い前の話なのですけれども。

学ぶ子供たちは、いろんな刺激の中で今、以前とは違う世代の子供たちが生まれてきていますから、私たちとは生まれたときの環境は全然違いますし、育つ環境も違いますから、当たり前と同じようにやるのはできませんけれども、それでも人間としては同じ人間であるわけですから、その基本的なものを学んでいくということは、100年前もこれから100年先も変わらないでほしいなという気持ちがあります。それは、その時代、時代における環境の中でやることは変わるかもしれませんが。

でも本質は変わらない中で、今私たちが育むべきものというのは、やはり小学校に入った子供たちの学び方、小学校の6年間の過程の中でも変化をしながら中学生になっていったの学び、そういったことはいろいろあると思いますし、やはり今、核家族という言葉はもう聞かれなくなるぐらいに当たり前になってしまった中で、地域の力、地域の方々からの、言ってみれば周りのおじいさん、おばあさんのような方々の力が重要になっていく。親戚の方々、そういった方からのいろんな話を聞けない分、周りの方々が本当に一つのエリアが、一つの家庭を、一族をつくるような、多く言えば美幌町が一つの家族になるような、そういった中で皆さんがみまもり隊だとか、

そういったことの活動を盛んにやられていますから、そういったことはたくさんあるのですけれども、そのようなことが当たり前に広くつながっていくような、そんな町になっていていただければと思います。

本当に町長は教育長時代からもそういったことはよくおっしゃっていらっしゃいましたが、私もそのことには本当に同調しておりました。今、学校に行っても先生方、温かく私たちを迎えてくださいます。視察に行っても本当にいろんなことを教えてくださいますし、いろんなことを見せてくださいます。そんな環境にもなっていまいりました。学校、家庭、地域、これは本当に一体になるような町になっていただければなとそんなふうにつくづく思う次第でございます。

○平野町長 はい、ありがとうございます。教育長、何かあります。

○矢萩教育長 今、皆さんからご意見頂いたところですが、町の教育大綱の中で、知・徳・体、調和というのがあるんですね。これは非常に大事なことだと思っております。その中で今年、新年度において、小中一貫教育のビジョン策定を考えております。その中で地域の目指す子供というのを明らかにした中で、それを本当に保護者だけでなく、地域といわゆる共有した中で、美幌町の子供の目指す姿というのはこうなんだということを、やっぱりしっかり理解していただいた中で、教育行政を進めていければと思っておりますので、今後またお力添えいただければと思います。

○平野町長 ありがとうございます。

あえてまとめることはしないのですけれども、本当に皆さん、こういうふうにお話ができたことには感謝したいというふうに思っております。私も今日、藪下先生のほうから、やっぱりよく私も簡単に美幌学力低いよねと、これはもう言い方を改めなきゃいけない。何が学力かとか、さっき加藤委員が言っていた、本来私はこの町で温かな町というか、本当に人との関係をきちんと築けるような町

になっていってほしいと思うのですね。そこにいる子が、今度は基礎学力というものがあつたとするならば、あとはできる、できないというのは、その人の人生の中で何ぼでも変わる話だから、そのベースというのは指導主事が一番ここだというところをきちんと私どもがぶれないで、やっぱり子供たちにきちんと伝え続ける、それから親御さんたちに批判ではなくて応援し続けることが大事かなというふうに思っております。

こういうような話で終わっちゃうのですけども、これからも皆さんと色々な話ができて、それが本当にこの町に住んでいてよかったなというような、自分自身も、やっぱり自分が本当に幸せでというか、そういう気持ちでないとできないので、それをしっかり持った中で少しでも周りに広げる努力は皆さんとしたいと思っておりますので、一応私の進めについてはこれで終わらせてもらって、あとは進进行を遠藤部長に戻します。

4 閉 会

○遠藤教育部長 それでは長時間にわたり、お話ありがとうございました。その他で皆さんお話することないでしょうか。

それでは時間になりましたので、以上で締めたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

15時15分 閉会